

ヨシザワ建築構造設計



ヨシザワ建築構造設計（東京都中央区、米田圭介社長）は、工場の増改築や耐震補強に事業を特化した企画提案型の建設会社。建物の安全性や耐震性を考慮して設計する構造設計を得意として、企画から設計、施工管理、アフターケアまで手がける。事業戦略で、デザインや設備の設計提案や3次元モデリング技術（BIM）を使い、建設する建物の立体モデルをベースとした設計を進めている。8月に社長に就任した米田社長に今後の方針などを聞いた。

代表取締役 米田 圭介 氏

「自社の強みや独自性をどうみますか。」

「生産性や労働環境を改善するモノづくりのための建物作りを提案できることだ。構造技術を熟知し、生産設備を残しながら既存工場に覆いかぶせるように鉄骨を組む『カバービルド工法』や、工期を分割して操業を維持しながら工期ごとに建て替える『セパレート工法』など独自の工法を展開している。顧客の困りごとを解決するために構造と合わせて解決策を提案し、累計約3000棟の施工実績がある」

カバービルド工法の施工



「工場も見た目や清潔感が重要になっていく。外観がぼろぼろだと採用の応募が来ない」

「初めの創業家以外の社長です。会社をどう引っ張りますか。」

「組織や事業をより強固にしていく。私が入社した約20年前に比べると、5社に増えたグループ全体で約130人になった。吉沢会長は新設したヨシザワデザイン設備設計の社長として、後をめぐりに、設計の実施や数量の計算、施工現場での活用を進める」

「BIMに移行する」

BIM化を推進

「設計の提案段階でBIMを活用していきなす。」

「ベトナムで活用を」

企画から設計、施工管理、

アフターケアに対応

「スーパーゼネコンや設計事務所がBIM化が始まっているが、施工までやっている中小企業の導入は少ない。としたが、CAD利用へ役に立ちたい」